

家庭科教育ゼミ フィールドワーク報告

日程: 令和 7 年 2 月 24 日~2 月 26 日

訪問先: 台湾(台北 101・国立故宮博物院・中正記念堂・九份・十分・桃園神社など)

昨年度は、大杉ゼミ、高橋ゼミとともに韓国ソウルにフィールドワークに行きましたが、本年度は同ゼミとともに台湾を訪問しました。本ゼミは食をメインとしたゼミであるため、事前学習では台湾の食について各自がまとめ現地に行ってきました。

今回のフィールドワークは非常に盛りだくさんな内容でとても充実した 3 日間でした。

その内容を駆け足で紹介しますと、初日に訪れた台北 101 では悪天候でしたが 59 階から霞む台北の街並みをながめ、さらには大谷翔平選手の 50-50 の記念球を見たり、早速同階にあるカフェで台湾発祥であるタピオカミルクティーを飲んだりしました。

今回は、3 日間ガイドの李春蘭さんが帯同してくれました。食については「中国の様々な地域から台湾に人々が来ているため、台湾では中国各地の食が楽しむことができる」と解説してくれました。早速初日の夜は、北京宮廷料理を味わいました。圧巻だったのは、まるごと燻製にされた北京ダックがまず披露されたことです。その後切り分けられた北京ダックの皮を、日本でも見られる春巻きに巻いて食べました。学生たちは初めて食する北京ダックのおいしさに驚いていました。日本で出される北京ダックよりも切り身が大きく非常に食べ応えがあるものでした。またその他の野菜炒めや、炒飯など日本になじみが多い献立も次々出てきましたが、いずれも日本人の味覚にも非常に合う味付けて、「完食」して食堂を後にしました。

2 日目は、まず国立故宮博物院を訪れました。そこで本ゼミとして興味深かったのは、玉で作られた肉形石(巨大な煮豚のような形)や白菜(これは貸し出し中で見られなかった)や大きな鼎(毛公鼎)など、食に関する宝物や大きな調理器具が故宮博物院で最も人気が高い収蔵品であるということでした。なぜ玉(ぎょく)のような高価な品で食材を作ったのかはわかりませんが、食が満たされた支配者にとっては、「食は単に食べるもの」だけではなく「遊び心を満たすもの」だったのかもしれませんが。生活に四苦八苦ししている階層ではとても考えが及ばない発想だと皆で話していました。

その後、中正記念堂で衛兵交代の式典を見た後、昼食では飲茶を食べましたが、いずれの飲茶も私たちの口に合い、おいしく完食しました。また日本では飲茶というと少し気取った料理をいただくイメージでしたが、この店では次から次へと客が入っては出てくる飲茶を食べて出て行っており、その回転の速さに皆少し驚かされました。日本の蕎麦屋のイメージでした。

午後は、まず十分でランタンにそれぞれの思いを書いて飛ばす体験をしました。幸いなことにこの日のみ天気がよく、青空高くランタンを飛ばすことができました。その後、九份に移動し、夕暮れに近づく幻想的な街並みと、阿里山茶や凍頂烏龍茶の試飲や、様々な揚げ物、スイーツを各自が堪能しました。

有名な阿妹茶楼閣では、台湾のお茶の実演があって運良くそこに入れた学生は、それらを動画に収めお茶も購入していました。しかし、欧米人を含めた観光客で身動きがならないほど九份は混雑しており、多くの学生が残念ながら列には並んだけど入店はできずにいて、次に台湾を訪れるときの目的ができたと言って帰ってきました。

3 日目の自由行動の時間では、台湾のスイーツを食べに行ったり、地元の人々の市場に行って、台湾の食

材（ドリアンなどの南国の果物、大豆を使った豆腐や湯葉、丸ごとの生の鳥、豚の心臓や足、色鮮やかな魚など）を見学したりとそれぞれに台湾を楽しみ、最後に桃園神社で心を清めて帰国しました。

総括としては、「台湾では中国全土の様々な食が味わえること」、「烏龍茶は中国の物より発酵が浅く、黄金のような色をして澄んだ味がして飲みやすいこと」、「いずれの味も日本人に非常に好みである味である」ことを学びました。価格的には、円高のためか日本とほぼ変わらない価格だったのですが、それぞれにお茶や様々なスイーツを購入して帰国しました。

これからも、今回のフィールドワークを活かして、食体験の幅を広げていきたいと考えています。



